

岐阜県生活協同組合連合会

〒500-8766 岐阜市領下 6 丁目 64 番地

TEL 058-201-6178 E-mail gifukenren@tcoop.or.jp HP <https://www.coop-gifukuren.jp/>

活動報告

第51回通常総会を開催しました

2026.6.20

6月20日(土)、岐阜市のコープぎふ本部において、全岐阜県生協連第51回通常総会を開催し代議員28名(実出席26名、書面2名)が出席しました。

ご来賓の岐阜県環境エネルギー生活部県民生活課の桂川課長から、県内における消費生活相談の増加や特殊詐欺被害の深刻化につ

いて報告があり、地域全体での見守りや県民総ぐるみの対策の必要

性が呼びかけられました。また、日本生協連関西地連の村上事務局長からは、国際情勢や国内課題が複雑化する中で、生協の果たす役割が一層重要になっていること、全岐阜県生協連の防災・平和活動や50周年の取り組みが地域における存在価値を高めているとの評価と期待が寄せられました。



<会場の様子>



<桂川課長>



<村上事務局長>

❖根崎会長理事 挨拶より

岐阜県生協連には、医療、教職員、大学、地域など県内の様々な分野で協同の力を大切にする仲間が結集し、消費者ネットワークづくりや防災減災、平和などの活動に取り組んでいます。昨年は50周年を迎え、記念事業を通じて活動を広げ、つながりを深めました。世界情勢が混沌とする中、対話と外交努力による問題解決こそが幸せにつながる道筋だと改めて感じています。被爆戦後81年の今年、核兵器のない世界への願いを多くの皆さんと広げていきたいと考えています。国連は今後10年ごとに国際協同組合年を位置づける事を決めています。SDGsの目標達成には協同組合の力が欠かせません。これまでの50年の歩みを大切にしながら、課題に真正面から向き合い、組合員が笑顔で幸せに暮らせる地域社会づくりを進めてまいります。



<根崎会長理事>

議長に岐阜県労働者共済生協代議員の飯沼和代さんが選出され議事に入り、佐藤専務理事が全ての議案を一括して提案し、小野監事より第1号議案に関わり監査報告がありました。続いて各会員生協からの活動報告で議案を深めました。

その後採決を行い全議案とも満場一致で可決されました。2026年度の活動方針と、それに基づく各活動計画、

定款や規約などの変更、役員の改選などが承認されました。中でも、第4号議案は組合名の変更

による定款変更で、新たに「岐阜県生活協同組合連合会」へ登記変更を行うことが決定されました。最後、内藤副会長理事の閉会挨拶で今年の総会を終了しました。

- 第1号 2025年度事業報告ならびに決算関係書類承認の件
- 第2号 会員ならびに会費規約の一部改訂の件
- 第3号 2026年度活動方針および予算決定の件
- 第4号 定款の一部改訂の件
- 第5号 全岐阜県生活協同組合連合会総会運営規約改訂の件
- 第6号 県連監事監査規則の一部改訂の件
- 第7号 県連役員選任の件



<内藤副会長理事>

※裏表紙 (p4) に続く

「被爆者の願いを継承する岐阜県民の会 第11回運営会議」が開催されました

2026.2.6

2月6日(金)、岐阜市のハートフルスクエア G にて「被爆者の願いを継承する岐阜県民の会」第11回運営会議が開催され、団体・個人会員ら29名が参加しました。

冒頭、代表世話人の安藤征治さんは、防衛費拡大や非核三原則見直しなど軍事化の流れに強い懸念を示し、「核兵器問題が選挙でほとんど議論されていない現状は危機的」と述べました。

2025年度の活動報告では、被爆証言の記録や「すべての国に核兵器禁止条約の批准を求める署名活動」、学習・啓発活動などを報告。署名は累計88,169筆が提出されましたが、参加者減少が課題とされ、さらなる協力が呼びかけられました。

また、胎内被爆者の宇田茂樹さんが被爆体験を語り、原爆投下直後の惨状や見えない放射線の恐ろしさを訴えました。「核兵器も戦争もない世界を実現したい」との呼びかけがありました。

この後、グループに分かれて署名運動の継続について交流し、閉会では「一人ひとりの意識が未来を変える力になる」とのメッセージが述べられ、今後も核なき世界をめざし取り組みを進めていくことを確認しました。



<会場全体>

「岐阜県ピースアクション連絡会」で今年の平和活動を交流しました。

2026.3.30、4.21

3月30日(月)と4月21日(火)、「2026年度岐阜県ピースアクション連絡会」が、開催されました。本連絡会には、岐阜県内の被爆者団体、平和活動を進める団体、生協関係者などが参加しています。2回の会議を通して、平和活動の交流と、「ぎふピースアクション2026」を中心とした今後の取り組みについて意見交換を行いました。

2025年度の平和活動報告では、被爆者の願いを継承する岐阜県民の会が「すべての国に核兵器禁止条約の批准を求める署名運動」や被爆証言の記録、講演会の開催等を紹介しました。国民平和大行進は参加者が増えた一方、方針転換の周知不足が課題となったと報告がありました。全岐阜県生協連は被爆ピアノコンサートやイラン戦争への抗議声明の発信について、コープぎふはヒロシマ等への参加や聞き書き集発行、平和の折鶴の取り組み等を報告しました。きょうさん岐阜支部は平和学習会の模様を、岐朋会は健康相談会での被爆者対応の学習会の様子を紹介しました。

2026年度は、核兵器禁止条約批准を求める署名運動の継続や、NPT再検討会議の参加報告、国民平和大行進への参加拡大、被爆80年や憲法学習を通じた次世代への継承を大切に取り組みます。コープぎふの映画上映会や被爆ピアノコンサート、岐朋会の「原爆と人間展」や原爆死没者慰霊祭、生協連の憲法学習会などを連携して進めます。また「ぎふピースアクション2026」では国民平和大行進の日程や役割を確認し、平和メッセージ集や黄色いリボン制作も検討。若い世代の力を活かしながら、核兵器のない平和な社会の実現を目指します。



<会議の風景>



<平和行進の風景>

「災害支援」をテーマに岐阜県社会福祉協議会と三者懇談会を開催しました。

2026.4.9

4月9日(木)、岐阜県社会福祉協議会、コープぎふ、全岐阜県生協連で「災害支援」等をテーマに第5回懇談会を開催しました。全岐阜県生協連からは、50周年記念事業など2026年度活動全般を紹介し、その中で「災害支援」の分野では「岐阜県災害中間支援組織にかかる検討会議」や「災害ボランティア連絡調整会議設置訓練」への参加など、「防災・減災」の分野では岐阜県と下呂市主催「地域住民主体の避難所運営訓練」への参加などを報告しました。コープぎふからは、「能登を笑顔に！アクションプログラム」や「災害ボランティア組織の立ち上げ」などを報告しました。また、被爆・戦後80年として取り組んだたくさんの活動や、福祉活動として、「場面緘黙学習会」「リデザインプロジェクト」「福祉活動助成基金」「フードドライブ活動」「おとなの健康大学」等も紹介されました。

意見交換では、岐阜県災害中間支援組織への関り方や、生協と社協と一緒にできそうな取り組みとして炊き出しの合同訓練など、より実践的な連携を進めていきたいとの意見が出されました。また、平時からの準備の必要性や、県だけでなく市町村のレベルでも顔の見える関係づくりが大切であるとの認識が改めて共有されました。

今回の懇談では、生協の活動として、災害支援、防災、福祉、平和、障がい者支援など多方面にわたる取り組みが紹介されました。「ここまで多岐にわたっているとは思わなかった」「年々活動が広がっている」との声を岐阜県社協の参加者からいただき、災害支援だけでなく福祉分野等での連携強化の可能性も確認することができました。



<懇談会の様子>

2028年度に向けた生協法改正要望学習会を開催しました

2026.4.20

4月20日(月)、岐阜市のコープぎふ本部で拡大県連理事会学習会を開催しました。生協法制度の関連では、2024年2月の「生協法制度2028年度見直しに向けたキックオフ学習会」に続く形での開催となりました。

講師は、日本生協連渉外・国際部の毎田伸一さんにお越し、東京の日本生協連本部から法務部の太田史子さんもオンラインでつないでいただき、県連と会員生協の役職員・理事など 33 名が参加しました。

毎田さんから今回の改正要望の大枠について説明していただいた後で、太田さんから、「生協法の構造及び問題点」をお話いただきました。

質疑応答では、医療生協における剰余金の扱いや、員外利用の考え方、購買・葬祭・医療・介護事業をめぐる現行生協法の制約と課題などについて、参加者から率直で具体的な質問が相次ぎました。それぞれの質問に対して、講師からは生協法の条文やこれまでの運用、国内外の事例、協同組合の原則に基づいた考え方を踏まえながら丁寧な回答が示され、参加者相互に理解を深める機会となりました。また、現場の悩みや実態を今後の法改正要望につなげていく重要性についても共有されました。



＜学習会の様子＞

活動報告

消費者ネットワーク岐阜 第17回総会・記念講演会が開催されました。

2026.5.16

5月16日(土)、消費者ネットワーク岐阜第17回総会・記念講演会が岐阜市のコープぎふ本部で開催され、33名が参加しました。第1部の総会では、提案された4つの議案が満場一致で承認されました。

第2部の記念講演では、法政大学キャリアデザイン学部教授の坂本旬氏が、「AI社会を生き抜くためのAIリテラシー～広がるリスクから身を守り、AIとともに生きる力を育てる～」をテーマに講演されました。講演を通して、AI社会の進展に伴い、消費者が安全に生活するためには、インターネット広告やアルゴリズムの仕組みを理解し、ダークパターンや偽情報に対処する力が不可欠であることを示されました。

特に生成AIは利便性が高い一方で、誤情報やバイアス、個人情報漏えいなどのリスクを伴うため、仕組みを理解し批判的に活用する姿勢が求められるということ、AIはあくまで道具であり、判断の主体は人間であるとの認識のもと、リテラシーと倫理を重視した教育と社会的対応の必要性が強調されました。記念講演会の模様は岐阜大学等の学生にオンデマンド配信され、約500人が視聴しました。



＜消費者ネットワーク岐阜講演会の様子＞

活動報告

(一社)ぎふの田舎へいこう推進協議会 2026年度会員総会が開催されました。

2026.6.2

6月2日(火)、郡上市総合文化センターで、(一社)ぎふの田舎へいこう推進協議会の「会員総会」が開催され、会員や行政の方など37名が参加しました。代表理事が挨拶し、事務局長から昨年度の取り組みや今年度の活動内容と展望が報告されたのち、4つのテーマで参加者同士の交流が行われました。

- ①農泊体験のはじめ方・つづけ方：農泊への向き合い方や動機を掘り下げ、農業に直接関わらなくても、いろいろな農村の魅力を発信するだけでも農泊の取り組みとして十分であることが確認されました。
 - ②集客と魅力発信：Google マップや SNS を活用した情報収集が主流であることが報告され、その場でしか体験できない様な、記憶に残る体験づくりと継続的な発信の重要性が議論されました。
 - ③担い手・後継者について考える：地域ごとの特性に応じたアプローチが必要で、外国人労働者、Uターン者、移住者など多様な担い手の可能性と、人とのネットワークづくりの重要性が確認されました。
 - ④地域ネットワークづくり：キーマンを核とした関係性の拡大、分かりやすい情報発信、参加者同士の横のつながり、そして現物・リアル体験の価値が重要なポイントとして整理されました。
- 各グループでの活発な交流を通じて、それぞれが抱える課題への新たな視点や解決のヒントを得ることができました。



＜会員総会 会場の様子＞

活動報告

ぎふハチドリ基金2026年度助成事業採択証書 交付式が開催されました。

2026.6.17

6月17日(水)、岐阜市のハートフルスクエアGで、認定特定非営利活動法人ぎふハチドリ基金の2026年度助成事業採択証書交付式が開催されました。この助成事業は、同基金への寄付金・募金・応援団会費などを原資に、くらしの困りごとを抱えている人への支援活動に取り組む岐阜県内の非営利団体に助成を行うもので、2012年度から毎年実施されています。2026年度は「すぽっと助成」「はじめる助成」「つづける助成」「利用者負担軽減助成」として31事業(30団体)に、助成総額728.6万円の助成金の交付が決定されました。開会にあたり中川副理事長からは「集まった財源を皆さんの活動に分け、元気に楽しく周囲へ影響を及ぼす活動を続けてほしい」と挨拶。こくみん共済coopの内藤本部長など3名の来賓からも温かい激励の言葉が寄せられました。鳥居審査委員長は「やりたいことと助成金の必要性をどう結びつけるかが鍵」と講評し、体験格差や継続支援の大切さに触れました。採択団体は、不登校支援やフリースクール、子ども食堂、医療的ケア児の通学サポート、ひとり親家庭支援、子育て中の母親の居場所づくりなど多岐にわたります。各団体の代表者からは、採択証書交付にあたり活動への熱意と感謝の言葉が次々と語られました。



＜交付式＞

※表紙 (p1) の続き

毎年の総会では、県連からの報告とあわせ、会員生協からの活動報告で議案を深めています。今回も、各生協から 2025 年度活動の報告や 2026 年度の計画が紹介されました。



<議長の飯沼さんと各生協の活動報告者の皆さん>

その後開催された第 1 回理事会では、根崎会長理事、内藤副会長理事、多村専務理事が互選され、代表理事に根崎会長理事、多村専務理事が選定されました。

そして、今回で役員を退任された佐藤圭三さん、子安貞継さん、村上達也さんに、記念の花束と慰労金が贈られ、三人の方より退任のご挨拶がありました。また、今年度より理事・監事に就任された、多村幸司さん(コープぎふ)、浅野正嗣さん(生協アイチョイス岐阜)、鎌田尊義さん(東海労働金庫)より新任挨拶がありました。



<退任理事・監事に花束が贈呈されました>

❖2026年度役員体制❖ ~よろしく願いいたします~

会長理事(代表理事)	根崎 周一	生活協同組合コープぎふ／理事長	重任
副会長理事	内藤 浩	岐阜県労働者共済生活協同組合／理事長	重任
専務理事(代表理事)	多村 幸司	生活協同組合コープぎふ／専務理事	新任
理事	片桐 学	岐阜県学校生活協同組合／専務理事	重任
理事	平井 恵子	岐阜県労働者共済生活協同組合／専務理事	重任
理事	前口 直樹	岐阜大学消費生活協同組合／専務理事	重任
理事	児玉 幸夫	生活協同組合コープぎふ／専務理事	重任
理事	中村 英洋	西濃医療生活協同組合／専務理事	重任
理事	浅野 正嗣	生活協同組合アイチョイス岐阜／専務理事	新任
監事	小野 廣紀	岐阜市立女子短大生活協同組合／理事長	重任
監事	鎌田 尊義	東海労働金庫／統括営業部副部長	新任



<新任役員の皆さま。上から多村幸司さん、浅野正嗣さん、鎌田尊義さん>

❖2026年度の重点課題❖

- (1) 自然災害に備え、職員と組合員の命を守る取り組みを進めます。
- (2) 身近な地域の活動に、行政や諸団体、協同組合と連携して取り組みます。
- (3) 行政や議会との関係づくりを進め、生協への理解と支持をひろげます。
- (4) 渉外・広報活動を強め、生協の社会的認知度の向上をめざします。
- (5) 会員生協の経営相談や支援を進めます。

岐阜県学校生協 岐阜大学生協 岐阜県労働者共済生協 コープぎふ
岐阜女短生協 西濃医療生協 生協アイチョイス岐阜